

次期理事長候補者の略歴等

氏名 五福 明夫 (ごふく あきお)
年齢 66歳 (昭和32年 (1957年) 12月生)
住所 岡山県赤磐市
出身地 大阪府



(1) 学歴

昭和56年 (1981年) 3月 京都大学工学部電気工学第二学科卒業
昭和58年 (1983年) 3月 京都大学大学院工学研究科博士前期課程
電気工学第二専攻修了
昭和59年 (1984年) 3月 京都大学大学院工学研究科博士後期課程中退
平成2年 (1990年) 9月 工学博士 (京都大学) 学位取得

(2) 職歴

昭和59年 (1984年) 4月 京都大学原子エネルギー研究所助手
平成6年 (1994年) 12月 岡山大学工学部機械工学部助教授
平成8年 (1996年) 4月 岡山大学工学部システム工学科助教授
平成10年 (1998年) 12月 岡山大学工学部システム工学科教授
平成12年 (2000年) 4月 岡山県立大学大学院非常勤講師
平成17年 (2005年) 4月 岡山大学大学院自然科学研究科教授
平成30年 (2018年) 4月 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科
教授
令和4年 (2022年) 4月 岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域
教授
令和5年 (2023年) 4月 岡山県立大学理事兼副学長 (教育・学術研究担当)

(3) プロフィール

五福明夫氏は、公益財団法人 岡山工学振興会の評議員として岡山県の大学と産業界との連携を図り、学術及び技術開発の進展に貢献している。

また、原子力規制庁のプラント安全技術評価検討会に外部専門家として原子力規制委員会における安全研究に係る技術的観点からの評価を行い、一般社団法人日本電気協会 原子力規格委員会 安全設計分科会委員として、電気技術規程 (JEAC) 等の審議等を行い、公衆の安全に係る規格の整備と高度化を推進している。

令和5年4月、公立大学法人岡山県立大学理事に就任し、他大学での経験や高い知見を生かし、学部長、研究科長及びセンター長に対し、教育・学術研究上の助言・指導を行い、本学の教育上及び学術研究上の企画運営及び点検評価業務の推進に取り組んでいる。また、同大学副学長 (教育・学術研究担当) として、教育関係の諸委員会や内部質保証推進会議を主宰し、学部・大学院での教育に関して全学的な視点から統括するとともに、一年生科目の「大学で学ぶ」と「キャリア形成」をコーディネートするなど、初年次教育にも尽力している。

所 信

現代の人類社会は高齢化や地球環境問題など多くの課題があり、また AI、ネットワーク技術やロボット技術などの発達により社会構造が大きく変化する時代となってきました。この予測が困難な時代においては、社会や環境の変化にレジリエントに逞しく対応でき新しい人類社会を築ける人材の輩出と、人類の持続的発展に貢献する科学の探究や技術開発が必須です。また、来年度より6年間の第4期中期目標・中期計画期間となり、設置団体の岡山県からは中期目標（案）が提示されており、それを達成するための中期計画もほぼ策定されています。

このような状況を踏まえて、地域に根ざし、保健福祉学、情報工学、および、デザイン学の分野において、『存在感があり学びたくなる』岡山県立大学となるように運営していきたいと考えています。すなわち、建学の精神である「人間尊重と福祉の増進」を念頭に、中期目標の達成を目指して、これまでの教育・研究と地域貢献を、時代の状況変化に応じて継続・発展させて、環境負荷を少なくしつつ人類の持続的発展を可能とする科学・技術の研究とそれを実践できる人材育成を行う環境作りに努力致します。

教育面では、社会の要請を踏まえて学生主体の教育を目指して教育組織と教育カリキュラムを適宜見直し、

- 1) 学生目線の教育により学生個々人の能力の向上、
 - 2) リベラルアーツ教育、情報リテラシー教育やサイエンスカフェなどの開催により、予測困難な時代において逞しく人生を切り拓くための能力の獲得、
 - 3) 時代を先取りした専門分野の知識や応用能力の獲得、
 - 4) 副専攻「吉備の杜」を継続・発展させて、地域企業や社会と協働して実践的な課題発見・解決能力の鍛錬、
 - 5) 多分野の専門家と協働して人類の持続的発展のためのイノベーションを起こすことができる能力の開拓、
 - 6) 国際連携教育を進展させて学生派遣や留学生受け入れを積極的に行うとともに国際交流イベントの開催により、国際的な活躍に必要なコミュニケーション能力の涵養を学生が主体的にできる学びの環境を整備するとともに、
 - 7) リカレント教育を確立して地域の有能な人材が時代に応じた知識や能力を磨くための社会人教育の確立
- を目指します。

研究面では、研究者の独創的研究とともに、特徴ある学部構成を活かした異分野融合研究やグローバルな共同研究を推進していきます。すなわち、

- 1) 研究者の独創的研究の展開を支援し、
- 2) 本学の3分野の専門家などが協働して、1つの専門分野だけでは解決できない実際的な課題の解決を目指すイノベティブな研究を推進し、
- 3) 令和6年度に採択された「地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」（令和7年度まで）により整備する「樹人ハブ（仮称）」を拠点として地域企業との共同研究を進展させ、
- 4) 本学が主導する研究会を運営し、また国内外の研究機関との共同研究を推進したいと考えています。

また、地域貢献の面では、地域に支援される大学となるよう

- 1) 岡山県の産業を踏まえた教育・研究の成果を、OPU フォーラムや各種講座の開催により地域に還元するとともに、
- 2) 「樹人ハブ（仮称）」を中心として、本学キャンパスを地域住民や地域企業が集う場としてより一層活用できる

ようにしたいと考えています。

一方、大学の運営面では、

- 1) 教職員が生き生きと活躍できるような職場環境の整備に努め、
- 2) 研修を適宜設けて学習する組織作りを進め、
- 3) 設置団体である岡山県との協議・連携を深め、
- 4) 教育、研究や地域貢献を活性化するために、外部資金を積極的に獲得したいと考えています。

『存在感があり学びたくなる』 岡山県立大学

課題 **社会状況：予測困難な時代**
・高齢化や地球環境問題などの人類の持続的発展を妨げる課題
・AI、ネットワーク技術、ロボット技術の発達により社会構造が大きく変化

第4期中期目標
・中期計画
(2025～2030年度)
・教育研究等の質の向上
・法人の経営

目標 **近未来の社会に必要な人材の能力**
・社会や環境の変化にレジリエントに対応できる
・新しい人類社会を築ける

人類の持続的発展に貢献する科学・技術の探究

アプローチ

教育：時代に応じた学生主体の教育

- 1) 学生目線の教育：学生の能力の伸長
- 2) リベラルアーツ教育＋情報リテラシー教育：人生を切り拓く能力の獲得
- 3) 時代を先取りした専門分野の知識と応用能力の育成
- 4) 副専攻「吉備の杜」の継続・発展：実践的な課題発見・解決能力の鍛錬
- 5) イノベーション能力の育成
- 6) 国際連携教育、英語カフェ、国際交流イベント：国際的な活躍に必要な能力の涵養
- 7) リカレント教育の確立

人間尊重と福祉の増進



岡山県立大学

研究：独創的研究＋融合研究の推進

- 1) 研究者の独創的研究の展開の支援
- 2) 本学の専門家が協働した**分野横断のイノベティブな研究**の推進
- 3) 「樹人ハブ（仮称）」を拠点とした地域企業との共同研究の進展
- 4) 研究会の主導と国内外の研究機関との共同研究の推進

社会貢献：地域に支援される大学

- 1) 教育・研究の成果を地域に還元
- 2) 「樹人ハブ（仮称）」など本学キャンパスを地域が集う場として活用

管理運営：

学習する活力ある組織

- 1) 教職員が生き生きと活躍できる職場環境の整備
- 2) 学習する組織作り
- 3) 設置団体である岡山県との協議・連携の深化
- 4) 外部資金の積極的な獲得